

映画監督コース

授業時間帯

月・木・金 19:30~22:00

土 13:00~15:30 / 16:00~18:00

映画監督コースでは、脚本、撮影、編集、完成まで、すべてを一人一人が手掛けます。前期と後期1作品ずつ、合わせて2作品を劇場公開する中で、講師や仲間と共に撮りたい作品を考え抜き、映画を創りつづける環境を経験します。

カリキュラム

4月

ガイダンス

5月

映画制作講座（中間制作）

企画検討

自分の中にある「映画にしたいアイデア」を伝えられるよう、企画をまとめます。

6月

撮影実習

実際の撮影を通して、撮影現場での監督やスタッフの役割、俳優への演出指示のポイントなどを学びます。

7月

脚本執筆

企画が固まったら、脚本の執筆に入ります。授業時に受けたアドバイスをもとに、改稿を重ねます。

8月

撮影準備・撮影

脚本が完成したら、撮影の準備に入ります。キャスティング、撮影場所、機材の準備などを講師と相談しながら進めていきます。

9月

編集

編集中の作品を講師に見せ、アドバイスをもらいながら各自で編集作業を進めていきます。

10月

中間制作上映

専任講座で制作した作品を、映画館にて一般公開します。上映後には舞台挨拶なども行い、初めての劇場公開を経験します。

11月

映画制作講座（卒業制作）

企画検討

前期行った中間制作の経験を元に新たなテーマを考え、企画をまとめます。

12月

脚本執筆

映像化に向けてのアイデアや撮影準備のアドバイスも含めて、講師と相談しながら改稿を重ねます。

2016年

1月

撮影準備・撮影

撮影期間を考慮し、脚本執筆と並行してキャスティング、撮影場所、機材の準備などを講師と相談しながら進めていきます。

2月

編集

編集中の作品を講師に見せ、意図が効果的に伝わり、独自性の高い作品に仕上がるよう編集作業を進めていきます。

3月

4月

卒業制作上映

専任講座で制作した作品を、映画館にて一般公開します。上映後には舞台挨拶なども行い、1年間の集大成として発表します。

基礎講座

● 機材入門 担当：池野一成

ビデオカメラ、三脚、録音マイクなどの基本的な使い方や、編集の基礎について学びます。

● 編集入門 担当：大須賀淳

パソコンを使用した映像編集の基本的な操作や実践的な編集方法を学びます。

● 脚本入門 担当：榎本憲男

シナリオの書き方、ストーリーの構造や世界観について学び、オリジナルのプロット（あらすじ）を執筆します。

● 撮影入門 担当：中澤正行

撮影現場における実践的な撮影方法を学びます。前半は既存の作品の解説、後半は俳優を呼び実習を行います。

● 照明入門 担当：矢部一男

照明機材の役割や使用方法、撮影現場における実践的な照明設計を学びます。

● 録音入門 担当：高田伸也

録音機材の役割や使用方法、撮影現場やアフレコにおける実践的な録音方法を学びます。

応用講座

● 脚本リライト講座 担当：黒沢久子

プロの脚本家の指導により各自の脚本を完成します。人に見せる、伝えることを意識しながら改稿を繰り返し仕上げていきます。

● 撮影応用 担当：中澤正行

撮影現場における応用的な撮影方法を学びます。前半は効果的な画作りの知識とスキルを深め、後半は俳優を呼び実習を行います。

● 照明応用 担当：矢部一男

様々な状況の照明を実際に組み、撮影しながら照明設計の理解を深めます。

● 録音応用 担当：高田伸也

様々な撮影現場を想定し対処法を学びます。よりクリアな音質で録音する技術を身につけていきます。

● 編集応用 担当：大須賀淳

編集した作品のクオリティアップのための講座です。色調調整や整音技術、上映環境によって変わるアウトプットの方法を学びます。

特別講座

● 宣伝・配給講座 講師：直井卓俊（宣伝・配給・プロデューサー）

● クラウドファンディング講座 講師：大高健志（モーションギャラリイ）

● プロデュース講座 講師：前田紘孝（プロデューサー）

現在活躍中の製作・宣伝・配給プロデューサーや、クラウドファンディングのディレクターの講義を通して、映画や映像に関する教養を深めます。

講師紹介



映画制作講座 専任講師

市井昌秀（映画監督）

講師メッセージ

今年は「箱入り息子の恋」を撮影してから、およそ4年振りに映画を撮ります。振り返ってみると、13年前にENBUゼミの監督コースに入学してから、映画はこれで7本目（短篇含む）となりますが、映画に対する姿勢やモチベーションは全く変わってません。なぜなら映画が好きで好きでどうしようもなく好きだからだと思います。映画監督になりたい人ではなく、映画で表現しないと生きられない人、是非来て下さい。

プロフィール

1976年4月1日、富山県出身。関西学院大学在学中、髭男爵を結成。99年、髭男爵を脱退後、劇団東京乾電池を経て03年、ENBUゼミナールに入学。06年初の長編作品「隼」がPFF準グランプリ・技術賞を受賞。長編2作目「無防備」がPFFグランプリ・技術賞・Gyao賞、征山国際映画祭コンペティション部門グランプリ他を受賞し国内外から高い支持を得た。13年、初の商業映画「箱入り息子の恋」が公開しモントリオール世界映画祭正式出品、日本映画監督協会新人賞受賞。15年、初のTVドラマ「十月十日の進化論」(WOWOW)を監督し、ギャラクシー賞のテレビ部門奨励賞を受賞。今、日本映画界で最も期待される若手映画監督の一人である。